

別館香邊遊 淋氣催三宮路
樽風自皇亭 雲先水閣輕
陰散白鳥 南山積翠亭
東

改組新第3回日展 (2016)

李愷詩

竹本大鶴

作品の漢詩・読み・語意

別館春還淑氣催
三宮路轉鳳皇臺
雲飛北闕輕陰散
雨歇南山積翠來

別館 べつくわん 春還 はるかへ 淑氣催 しゆくきもよほ す。
三宮 さんきゆう 路轉 みちてん ず 鳳皇臺 ほうわうだい。
雲飛 くもと んで北闕 ほくけつ 輕陰散 けいいんさん じ、
雨歇 あめや んで南山 なんざん 積翠來 せきすゐきた る。

この離宮のあたりにも春がたちかえって、めでたい気が催してきた。蓬萊宮から興慶宮に通ずる道は、大きく轉回して城壁の高臺へさしかかった。雲が晴れて、北方一帯の宮殿にかかっていた軽い陰影も消えてしまい、雨がやんだので終南山の緑のあざやかな色がパツと目にはいつてくる。